

2019 連続講座 20世紀の建築空間遺産 Part II

設計とは、人々がそこで生きる内外空間を、要求、プログラムに基づき、機能性や快適性、経済性を満たすべく効果的に秩序づけ、編成することです。本講座では、形象意匠・オブジェとしての建築ではなく、内外空間に注目し、20世紀の建築空間の発展・展開において普遍に開く意義がある現存建築を選び、その建築の空間構成と質を確かめます。それを通じ、価値が共有され、遺産として未来に受け継がれる一助になること、参加者の仕事の糧になることを目指します。

第1回 壁を背に積層する川筋に開く空間

3/14 落水荘 (1936) F. L. ライト



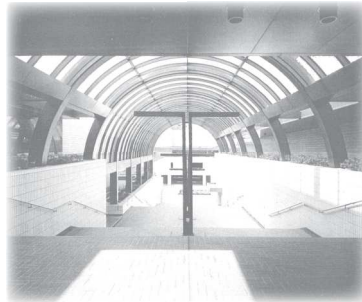
第2回 光の受容器としての祈りの空間

4/11 ロンシャンの教会 (1955) ル・コルビュジェ



第3回 瞑想と祈りの空間を結ぶ迷路的回廊

5/8 ラ・トゥレットの修道院 (1960) ル・コルビュジェ



第4回 痛み空間

6/13 ユダヤ博物館 (2001) ダニエル・リベスキンド

第5回 日本の20世紀後半を代表する建築空間

7/11 東京文化会館 (1961) 前川國男建築設計事務所
国立代々木競技場 (1964) 丹下健三+ウルテック
国立歴史民俗博物館 (1983) 芦原建築設計研究所

講師：小林 良雄

新建築家技術者集団 全国幹事会顧問

1963年 早稲田大学第1理工学部建築学科卒業
芦原義信建築設計研究所入所

主な担当建築 ○武蔵野美術大学本館
○国立歴史民俗博物館
○横浜女性フォーラム

1993年 地域建築空間研究所設立 現在に至る
共著「現代都市のリデザイン」

□開催日時

第3回 5/8 (水) 19～21時

3月～7月 第2木曜 (5月は第2水曜)

□受講料

一般：1,000円/回、学生：500円/回

□会場

都市住宅とまちづくり研究会
東京都千代田区神田東松下町33 COMS HOUSE 2階

